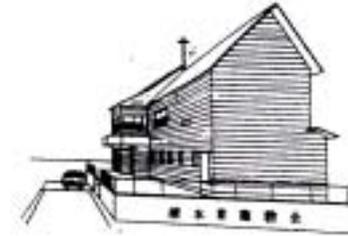


《今朝の聖書から》

今朝はパウロの手紙のうち“コロサイ人への手紙”からです。“エペソ人への手紙”、“ピリピ人への手紙”、“コロサイ人への手紙”、“ピレモンへの手紙”の四つを“獄中書簡”と言っています。この獄ですが、カイザリヤか、エペソか、ローマかはつきりしていない点もありますが、伝統的にはローマ説が有力で、従って執筆年もA.D.60年代前半ということになります。“光のうちにある聖徒たちの特権にあずかるに足る者とならせて下さった父なる神に、感謝することである(コロサイ1:12)”という讃美に続く今日の箇所も、牢獄にあらうが、私の働きが、一見前進していないように見えようが、そんなことには関係なく、キリストの恵みと計画が、私たちには、いかんともしがたい神の力を持って、前進しているという、讃美の宣言に続く箇所になります。「今は自由を奪われていても、思うようにならなくても、挫折したかのように思えるときでも、神様の力は、疑いようもない事実として、前進している」ということも、私たちに力と正しさを与えてくれることの一つなのです。13節から読み進めましょう。異邦人には、救いが自分達にももたらされているということは、驚きでした。そのことを説明しています。“やみの力から救い出して”の闇は、かつての姿を示しているのです。“光の子”とされているのです。アッシリヤ、バビロンに移されたことをよく知っていた人々にとって、“愛する御子の支配下に移して下さった”という表現は実によく理解できたことでしょうか。15~17節について、改まっていうなら、キリスト論ということが出来ますが、理解しやすく、私たちにもよく分かる表現をとっています。擬人化された知恵が、永遠から全能者として立てられ、その知恵は、想像の時から働かれたというのです。ここで、目に見える物質世界だけではなく、力や権威のようなもの・世界のシステムも含まれていることに注意しましょう(16節)。“国と力と栄とは汝のものなり(主の祈り)”というとき、もしキリストなる神のものでなかったら(この世に属する勢力のものだったら)、私たちの不安はどんなに大きなものになるのでしょうか。17節には、ものすごく大きな宣言がなされています。御子に世って造られ、実に御子のために造られ、御子によって保持されている世界は、教会を与えられ、御子によって必要な力を摂理として与えられているのです。今もそうです。パウロは、恵みの中で、獄中からこのことを語るのです。

週報

2007年 10月 28日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸